

1. 調査報告概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成19年9月7日

【評価実施概要】

事業所番号	2774501155
法人名	もみの木有限会社
事業所名	もみの木のいえ
所在地	泉佐野市羽倉崎3丁目8番5号 (電話)072-466-3358
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成19年8月25日

【情報提供票より】(平成19年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年9月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	17人	常勤	4人, 非常勤 13人, 常勤換算 6.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋・一部木造 造り		
	3階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000~32,000円	その他の経費(月額)	35,000円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200円	昼食 400円
	夕食	400円	おやつ (昼食に含む)円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年7月1日現在)

利用者人数	7名	男性	1名	女性	6名
要介護1	0名	要介護2	4名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 80歳	最低	55歳	最高	89歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人康生会、泉佐野優人会病院、ふじや歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設長が地域の福祉に役立ちたいという思いから、自分の家を増改築してグループホームを立ち上げました。
「明るく 楽しく 元気よく」との理念を管理者・職員が共有し、日々の支援にあたっています。家庭的な雰囲気を大切にしている、ホーム全体が穏やかな雰囲気になっています。
地域密着型としての事業所の展開に、試行錯誤しながら取り組んでおり、管理者や職員の前向きな姿勢から、期待がもてるグループホームとなっています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 前回評価の改善項目は、職員間で改善に向けて話し合いを行い、改善に取り組みました。 廊下の手すりや居室の名札、会議の開催等、利用者が安心を感じる生活へと改善されています。未改善の項目はこれから取り組む予定です。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は職員に自己評価の意義を伝えています。 評価作業も管理者と職員が情報を共有しながら取り組みました。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は2ヶ月に1度行われていますが、行事等の報告が主になっています。家族は遠方の方が多いため、参加できる家族は一人となっており、時々参加されています。 市の職員や婦人会・民生委員の方々が参加されているため、積極的に意見を聞き、地域に期待されるホームとなるよう努力することが望まれます。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族への報告は、定期的に金銭管理と生活状況を伝えています。 遠方の家族が多く、面会の頻度が少ない状況ですが、家族の意見はできるだけ直接顔を合わせて聞かせてもらうようにしています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームの行事には、ボランティアの方が参加しています。買い物は近くのスーパーに出かけています。今年は、地域で開催される敬老会に参加する予定になっています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念として『明るく、楽しく、元気良く』を掲げ、家庭的な雰囲気を目指して理念が作られており、パンフレットにも明文化されています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関ロビーの壁に理念が掲げられてあり、職員は理念を共有し、利用者が一日楽しく過ごしてもらえるように笑顔で接しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	地域のお祭りに参加しています。クリスマス会には地域のボランティアの方も参加し、一緒に楽しんでいます。今年は、地域の老人会が開催する敬老会にも参加予定です。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長、管理者、職員は評価の意義を理解しています。管理者は、自己評価について職員や計画作成担当者に相談してまとめています。前回の評価を活用し、手すりを設置し、自室がわかるように表示する等改善し、また改善について話し合った記録もあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の規定、規約は作成していませんが、2ヶ月に1度、婦人会・民生委員・市職員等で運営推進会議を開催しています。内容と出席者の記録はあります。利用者の家族は都合がつけば出席していますが、利用者で会議に参加できる方はいません。今年は、会議内で得た情報で七夕の笹を取りに行きました。	○	運営推進会議を開催するにあたり、今後は委員の構成や開催方法等のルールを整理し詳細が記載された規定、規約を作成されることが求められます。また会議の欠席者にも内容を報告することが望まれます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から、市の職員に相談や連絡をしています。市の担当者にも運営推進会議に参加してもらい、アドバイスを得ています。事故報告書は迅速に作られ市に報告しています。事故報告書について、市へ報告する基準を把握することが望まれます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員は家族が面会時に声をかけ、利用者の状況等話をしています。心身の状況変化の折や請求書の送付時にも家族へ伝えていきます。金銭出納帳もあり、領収書を家族に送付していますが、立替時に家族の了解がとれていません。	○	金銭を立て替える時は、事前に家族の了解を得ることが求められます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	泉佐野市内の利用者はなく、遠方の利用者が多いため、家族等の面会は少ない状況になっています。家族が面会に来られた時は家族から意見を聞くようにしています。日頃、面会に来られない家族の方も、利用者の誕生日には面会に来られる家族が2～3名います。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職時には、新人職員につき一緒に仕事をすることにより、利用者に慣れてもらいダメージが少なくなるようにと配慮しています。利用者や面会に来た家族には、新人職員を紹介していますが、今後は職員の名前等がわかるように、写真入りの紹介ポスター等掲示されてはいかがでしょうか。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は緊急時対応の研修のみ実施されています。認知症の研修は未実施となっています。感染症の研修には参加する予定になっています。新人研修については、採用時のスタッフが指導者としてつき、実地研修を行っています。	○	認知症を正しく理解するためにも、認知症研修の受講が求められます。内部研修については、ケース検討を行い、学び合うなど工夫し、研修計画をたてることが望まれます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年7月から大阪認知症高齢者グループホーム協議会に入会しています。しかし、地域の関連事業者との学習会等交流の機会はないため、泉佐野市内のグループホームでのネットワーク作りを提案されてはいかがでしょうか。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者はグループホームの体験利用をして、馴染みながらの利用を実践しています。また利用前には、職員が可能な限り自宅を訪問するようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意分野を發揮してもらい、洗濯物干し、取り込み、洗濯物たたみ、テーブル拭きなど職員と一緒に作業を行っています。男性利用者は新聞取りなどの役割があります。職員からは利用者に「支えてもらっている」と感謝の言葉を聞くことができました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生活歴や興味について、日々のケアの中で把握し、職員間で共有をしています。記録がありません。	○	利用者一人ひとりの思いや希望を引き出し、利用者と家族の希望を書面に記録し、介護計画に生かすことが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は作成していますが、利用者や家族の希望が反映された介護計画にはなっていません。カンファレンスは開催されておらず、介護計画の利用者・家族への説明・同意・交付もされていません。	○	前回の外部評価受審時と比較すると、書類は整備されていますが、利用者がより良く暮らすためには家族や関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画の作成が求められます。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しまでには至っていません。状態が変化した利用者について、介護計画を変更したケースが1件ありましたが、アセスメント・モニタリング・カンファレンスの流れにはなっていません。	○	アセスメント・モニタリング・カンファレンス・介護計画は4点セットです。計画をしっかりと立て、状況の変化に応じた見直しが求められます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	38	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望により、点滴が必要な利用者を週5日職員が病院について行くなど、通院を必要とする利用者には通院介助を行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームに入居する前のかかりつけ医を希望する体制になっています。家族の希望で大半が事業所の協力医に診てもらっていますが、入居前にかかっていた医師に受診している利用者もあります。緊急時の連絡網は整備されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方についての方針は、まだ決まっています。	○	重度化した場合や終末期のあり方についての方針はまだ決まっていないため、今後、利用者の機能低下を想定し、重度化の対応や終末期についての方針を話し合うことが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーについては、ミーティングの時や職員の引継ぎ時に話をしています。個人情報に関する規定はまだ作成されていません。プライバシーを損ねる言葉かけ等はありませんが、利用者の目に着くところに個人ファイルが置かれていました。また居室にはオムツが丸見えに置かれている状況でした。	○	今後は、プライバシーの問題もあるため、利用者や家族等から個人ファイルが見えないように工夫することが求められます。またオムツは他人に見られたくない物であるため、外部から見えないところにしまうか、もしくは布をかぶせる等、利用者の気持ちを汲み取り整理する工夫が求められます。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は決まっておらず、利用者一人ひとりの体調に配慮しながら、その時の利用者の気持ちを尊重した支援を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳の用意やテーブル拭き等、食事を楽しむ雰囲気作りに配慮しています。 以前は職員も利用者と一緒に食事を摂っていましたが、介助の必要な利用者が増え、職員は声かけをしながら食事介助を行い、その後職員自身の食事を摂っています。買い物が好きな利用者は週に1回、職員と共に買い物に出かけています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の意向で週に1回、10日に1回の割合で入浴する利用者がいます。入浴支援は同姓介助で行っています。	○	週3回を基本とした入浴支援が求められます。夏は、シャワーや清拭で利用者の状況やタイミングに合わせて入浴することが望まれます。 その上で、一人ひとりの生活習慣やその時々希望に合わせた支援が望まれます。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で力を発揮してもらえるように、掃除・洗濯物たたみ・朝刊取り等、利用者一人ひとりに合った役割を持ち、生活の張りになるよう支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の機能低下と夏の暑い最中ということもあり、外出希望の利用者はほとんどいません。しかし涼しくなれば、利用者の散歩等支援する計画があります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵はかかっています。また身体拘束もありません。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害発生時マニュアルは作成していますが、避難訓練が行われていません。非常食や水などの備蓄はありません。非常口に鍵はかかっていますが、容易に開けられる状態になっています。	○	今後、火事や地震等災害の発生時に、利用者が安全に避難できるように、避難訓練の実施と災害時に必要な非常食品や備品の準備が求められます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量の記録や、水分摂取量を把握する必要がある利用者には、水分摂取量の記録もあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間で不快な音や光を感じることはありませんでした。共用部分には、ソファがあり、季節の写真を飾り、心地よく過ごせるようになっていました。居室から食堂やトイレまでの廊下が長く感じる部分は空室に椅子を置くなどの工夫がありますが、満室になった場合、少しの間休める椅子等の設置が望まれます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた鏡台やタンスを持ち込み、居心地のよい居室になっています。しかし吸いのみ等がお盆や机の上でなく、たたみの上に置かれている状況がありました。今後は居心地よく過ごせるよう、利用者と共に居室の整理をすることが望まれます。		